

■事業報告■

第4回公開講座 (2015.10.3)



一般社団法人徳島県労働福祉会館が運営する、とくしま社会運動資料センターの第4回公開講座が、10月3日(土)ヒューマンワーくびあ徳島5F大ホールにて開催されました。今回は『輝いた阿波の女性たち』と題した連続講座の3回目。講師は元参議院議員でAWA女性研究所代表の乾晴美氏が務め、約2時間の講義に75名の方が参加しました。また聴覚障害者のための要約筆記を行うN

PO法人「文字情報支援ひこばえ」から3名の方が来られ、本講座の音声内容をノートパソコンに文字情報としての記録入力を行いました。

冒頭、労働福祉会館の藤原理事長より「今、朝のNHK連続テレビ小説で、日本最初の女子大学を設立した実在人物・広岡浅子さんをモデルとした『あさが来た』が放映されています。ドラマは封建制が色濃く残った幕末期から描かれております。広岡浅子は、明治期にかけて実業家として活躍すると同時に、女子教育の発展に奔走した人物であります。また先に放映された『花子とアン』では村岡花子さんの半生が描かれ、その中には女性の参政権を訴えた市川房枝さんも登場します。女性運動家を取り上げた今回の講座は、このような時期に相応しいものであると考えます。」と挨拶がありました。

今回の講座は、現在活躍中の女性運動家9名をゲストに迎え、乾講師がコーディネーター役となり、一人一人に生い立ち秘話から人生の転換期、そして女性運動・市民運動にかける思いを語って頂きました。乾講師を含めて10名の皆さん総じて、両親や家族の理解と協力があった点、ご自身の経験則も踏まえて学校教育や社会教育の大切さを説かれていた点が共通していました。

出演者プロフィール

| | |
|-------|------------------------------|
| 原 孝枝 | 白うめ幼稚園理事長／徳島県女性協議会元会長 |
| 磯田 正江 | 徳島県退職女性教職員協議会前会長／徳島県女性協議会元会長 |
| 竹内 菊世 | 徳島ペンクラブ会長 |
| 河野南代子 | 女性と子どもの人権を守る「エンゼルランプ」副代表 |
| 野尻 許子 | 日本網膜色素変性症協会徳島支部長 |
| 齒朶山加代 | 部落解放同盟徳島県連合会書記長 |
| 高開千代子 | アイ女性会議徳島県本部事務局長 |
| 東條 恭子 | ストップDV・サポートの会代表 |
| 高井 美穂 | 元衆議院議員／徳島県議会議員 |
| 乾 晴美 | 元参議院議員／AWA女性研究所代表 |

最後に、久積センター長より、「資料センターにて今回の連続3回の講座内容を取りまとめ、次の世代へと繋ぐ本を作ること、また、次回講座では徳島が発端となった森永ヒ素ミルク事件を取り上げること、そして徳島県内の労働運動、社会運動の貴重な資料を収集して次の世代へ遺すこと、これらが資料センターの使命であることを皆さんにお伝えしたいと思います。」と締めくくりの挨拶がありました。



特別企画 『賀川豊彦と吉野作造』パネル展 (2015.9.28-10.9)

9月28日(月)から10月9日(金)までの間、ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて特別企画『賀川豊彦と吉野作造』を行いました。労働福祉会館の関係団体をはじめ、任意団体やNPO法人の代表の方など、一般来館者を含めて延べ95名の方が訪れました。今回展示



した写真パネルは、賀川豊彦記念松沢資料館より提供して頂きました。その元出典は賀川豊彦記念松沢資料館のほか、学校法人東北学院、吉野作造記念館、公益財団法人東京大学YMCA 寮、社会福祉法人賛育会、日本基督教団陸前古川教会となっています。



第3回公開講座 (2015.7.18)

とくしま社会運動資料センターの第3回公開講座が、7月18日(土)、ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホールにて開催されました。今回は徳島における女性運動の歴史を学ぶ『輝いた阿波の女性たち』と題した連続講座の第2回目であり、講師は元参議院議員でAWA女性研究所代表の乾晴美氏が務め、約2時間の講義に60名の方が参加しました。冒頭、社会運動資料センターの久積



センター長より、「前回参加された方はテキスト『徳島県女性協議会 20年史』をお持ちのことと思

います。今日も乾節が聞けるかと思しますので、皆さん、しっかり勉強しましょう」と挨拶があり、続けて講座に移りました。

今回の講座は、既に他界された方で徳島の女性史に於いて草分けとなった5人の人物列伝です。考古学者鳥居龍蔵の妻として知られ「男女共生の先駆」と言われた鳥居きみ子、茶道家であり戦後の婦人活動の原動力となった坂口あさ、教育者として「教え子を再び戦場に送るな!!」の信条を貫き四国の民主教育のリーダー的存在であった坂尾茂子、終戦直後サトウハチローが改作したことで知られる国民歌『お山の杉の子』の原作者であり童謡作家の吉田テフ子、そして昭和21年4月10日戦後初の衆議院選挙に立候補して日本初の女性議員39名の中にその名を刻んだ紅露みつ。以上の方々について、徳島の女性史において未だ色褪せることのない功績を学びました。途中、乾講師の教職時代の同僚であった藤岡哲夫さんの生ギター演奏があり、吉田テフ子作「お山の杉の子」など軽快なトークを交えながら数曲が披露されました。

最後に、社会運動資料センター運営委員であり今回の司会進行を務めた東條恭子さんから「今日は女性の地位向上に生涯をかけて取り組んだ方たちを紹介していただきました。もっとも乾先生の話を知りたいです。」と締めくくりの挨拶がありました。

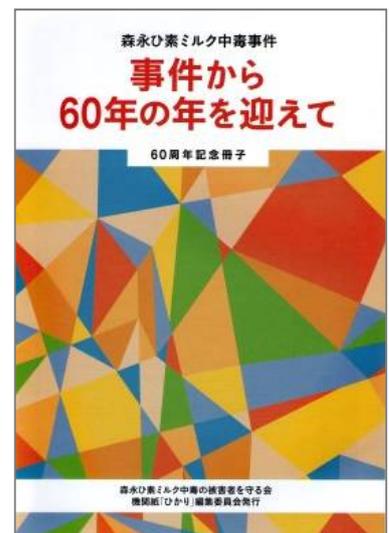


《事務局からのお知らせ》

坂尾直也さま、野村英二さま（故人）、山本光代さま、佐和正意さま、中野輝行さま、竹内菊世さま、野尻許子さま、河野南代子さま、以上8名の方から図書・資料一式をご寄贈いただきました。ご協力ありがとうございました。

/// 新着入荷 ///

- **森永ひ素ミルク中毒事件：事件から60年の年を迎えて**
森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 著、2015.8
- **「森永ひ素ミルク事件」事件発生から60年 DVD**
森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会 岡山県本部、2015.8
- **「文藝春秋」で読む戦後70年 第1巻～第4巻**
文藝春秋、2015
- **「九転十起」広岡浅子の生涯：“あさ”が100倍楽しくなる**
古川智映子 監修、2015



■告知・案内■

◎第5回公開講座の開催予定

日 時 来年3月頃予定
 場 所 ヒューマンわーくびあ徳島
 5F大ホール
 参 加 一般の方誰でも
 内 容 森永ひ素ミルク中毒事件
 の被害者救済、食の安全
 に関すること
 講 師 森永ひ素ミルク中毒の被害者を守る会
 徳島県支部委員長 江口哲生 氏

★ ☆ ★ ☆ ★
 徳島における社会運動・労働運動
 に関する資料や書籍、また労働組
 合や会社の周年記念史、会報誌な
 どをお持ちの方で、センターに寄
 贈したいとお考えの方がいらっし
 ゃいましたら、ぜひセンター事務
 局までご一報いただきますよう、
 お願いいたします。

★ ☆ ★ ☆ ★

一番の心配は自分亡きあとのこと

「森永ヒ素」親の思い

約1万3000人の乳児に健
 康被害が出て1300人が死した
 た「森永ヒ素」ミルク中毒事件
 の発覚から37日で丸60年。それ
 を機に、遺贈を迎えた被害者た
 ちが60年記念誌を発刊した。高
 齢で他界する親が多いなか、親
 が経験した苦悩や救済事業への
 貢献などを今のうちに残そうと
 いう被害者たちの思いが込めら
 れている。

救済事業をつづひかり協会
 (本部・大阪市)によると、被
 害者は1万3340人。今も7
 12人が障害や後遺症に悩んで
 いる。

60年記念誌で編集をした前野直道さん
 大阪府北区で20日

被害者ら60年記念誌

被害者や親でつくる「森永ひ
 素」ミルク中毒の被害者を守る
 会は、加害企業の森永乳業や
 国との交渉の結果、「被害者が
 一人でも生きていく限りの救済事
 業を続ける」という恒久救済を
 獲得している。2002年には
 全ての本部役員が被害者にな
 り、活動主体は親から被害者に
 世代交代した。

記念誌「事件から60年を
 迎えて」は、過去の歴史や最近
 の取り組みをまとめたほか、親
 たち12人の手記やインタビュー
 「重度被害者の父として」とし
 て」を掲載。「今一番心配なこ
 とは親亡きあとのこと」「飲ま
 せた親の責任だから、親が最期
 まで面倒を見るつもり」「森永
 6371-5304」【野雅弘、写真も】

森永ヒ素ミルク中毒事件
 1955年6月8日、森永乳業の粉ミルクを飲んだ乳児
 の皮膚が黒ずみ、高熱や下痢、おう吐、肝臓肥大などの症
 状が相次いで世界最大級の食品公害事件。原因は、徳島工場の製
 造過程で使われた乳菌安定剤にヒ素が混入したためだった。69年
 に致丸山博、大阪大教授らの調査(14年目の訪問)で深刻な後遺
 症が判明。74年、被害者側(国、森永の同意により)「ひかり協会」
 が設立され、恒久救済事業が実施されている。

をうらんだこともあるが、今さ
 ら「返せ」とは言えない。だが
 らせて『食の安全』について
 はきちんとやってほしいなと、
 親たちの率直な思いであふれて
 いる。一時「全国治癒」とされ
 た社会から開放されていた196
 5年、解散する予定だった岡山
 県の被害者団体の総会で、両親
 らが「心細い」と発言したため、
 解散が撤回されたというエピソ
 ードも。
 インタビューを担当した「守
 る会」副理事長の前野直道さん
 (60)は「私たちが種々な被害者仲
 間は、こういう苦悩をエネル
 ギーにしてもうがんばらない
 と、と感じた」と話す。

△5判、260頁。希望者に
 は1冊500円で郵配、問い合わせは「守る会」事務局(06-
 6371-5304)。

毎日新聞 2015.8.23

◎研究会メンバーの募集

とくしま社会運動資料センターでは、徳島における社会運動に関する研究会を開催します。参加資格は問いません。興味のある方は、ぜひご参加ください。募集要項、開催案内につきましては、詳細が決まり次第、ご案内いたします。

《《 閲覧室の利用案内 》》

| ◎閲覧コーナー | ◎検索コーナー | ◎視聴コーナー |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |  |
| 書籍、雑誌など約10,000冊の所蔵のうち約1,200冊を閲覧用として書架に並べています。 | 国立国会図書館サーチで検索したり、また電子書籍の閲覧などにも利用できます。 | 所蔵DVDの視聴などに利用できます。研修にも利用できます。 |

※詳細はリーフレット『ご利用のしおり』をご覧ください。

一般社団法人徳島県労働福祉会館 とくしま社会運動資料センター事務局

〒770-0942 徳島市昭和町 3丁目 35-1 / TEL 088-602-0532 / FAX 088-625-5005

メールアドレス roukan@workpia-tokushima.jp

ホームページ <http://workpia-tokushima.jp/> (旧 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~roukan/hp/> より、変更しました)